

# [dōnk]

## DONC どんく

発行

### 三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

N° 48 avril 1999 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

## ドミニク・ドゥーセさんにフランス農事勲章

### 在日 12 年目の快挙、250 人が祝う

「鈴鹿のフランス人のパン屋さん」で、いまや全国的にその名を知られる Dominique DOUCET さん（ドミニク・ドゥーセ、三重日仏協会会員）は、このたび日本におけるフランス食文化の紹介など長年にわたる功績を認められて、本国政府から農事功労章 Médaille du mérite agricole を受章され、3月25日には鈴鹿サーキット内でその伝達式と祝賀パーティーが開かれました。フランス総領事 Alain NAHOUM（アラン・ナウム）氏ら約250人がお祝いにつけつけたこの催しは、ドミニクさんが日本にいられて12年という節目に当たること、またテレビ東京の「TVチャンピオン・パン選手権」の番組で、昨年引き続き優勝されたことなどを記念し、「謝恩パーティー」として開いたもの。ドミニクさんは1987年ホンダの要請で鈴鹿サーキットのブーランジェとして来日、6年後、同市江島に独立店を開店、その後急成長を遂げて三重、愛知など各地にパンと菓子の店、レストランなど13店舗を経営してお客から好評を得ています。「最初は言葉もわからず、帰りたいとばかり思っていました。15歳のときから身に付けてきた技術と、良いスタッフら周囲に助けられ、ここまでがんばって来られました。フランス何千年の食文化を日本に伝えることに少しは貢献できたかと自負しています。受章を契機にこれからも精進したい。これまで以上に温かいご支援を……」とドミニクさんは語っていました。



勲章を胸にしたドミニクさんと、  
祝詞をのべるナウム総領事



パーティーでは特製の見事な  
お菓子がお客をひきつけた

### 雙葉、心のふるさと

### そして スール・アレクシのこと

浦口 奈雅子

四ツ谷駅の麴町口を出ると右手に聖イグナチオ教会、そして左手に赤煉瓦の塀に囲まれた修道院と雙葉学園の建物が見える。この赤煉瓦塀は第二次大戦にも耐え、丁度百年になるそうだが、この春、校舎の建て替えとともになくなることになったと聞く。雙葉は、本部をバりに置くカトリックの「幼きイエス会修道院」の経営で、我が母校である。

私は中学、高校の六年間この雙葉に通ったのである。雙葉では中学三年でフランス語が第二外国語として必修となる。授業は会話と文法の二部から成り、会話の先生はフランス人のスール（修道女）・アレクシ。フランス語以外一切使わず、“Bonjour, comment allez-vous?”で授業は始まり、その後スールは机間をコツコツと静かな靴音をさせて廻って、私達に次々に質問をするのだった。質問といっても、ABCから始めたばかりの生徒にするのだから、机の上の文房具や衣類を指して、“Qu'est-ce que c'est?” くらいのものだが、それでも私達はなるべく難しい単語を言わずに済む様にと、シャープペンシルやルーズリーフ、筆入れなどは机の奥にしまい込んで、机の上には鉛筆、ノート、教科書だけを出しておいたりしたものだ。そして時に、生徒のつけている十字架やマリア様のメダルについて不意に質問されて困ったりした。スール・アレクシは静かで厳しく、完璧に答えても、ただ、“Bon.”とだけ言った。

ある日、私たちは、なんとかこのスール・アレクシを笑わせようという計画を立て、四人の生徒が教室の後ろに並んでいるロッカーの中に隠れて、始業のチャイムを待った。スールが教室へ入って来て“Bonjour”と言う。起立していた私達は左右にさっさと分かれる。と、ロッカーの一つから生徒が一人とび出して「ド」の音で

“Bonjour!”と歌う。次の生徒が次のロッカーからとび出して「ミ」の音で“Bonjour!”と歌う。次の生徒が「ソ」の音で“Bonjour!”、次の生徒が「高いド」の音で“Bonjour!”そして四人揃って「ドミソド」の和音で“Comment allez-vous?”と歌った。スールは少し笑った、ように思う。そして“Bon, merci, et vous?”といつも通りに言った。会話のあとの文法の授業は、武井先生という大学を出たばかりの先生で、教室へ入ってくるなり「あなたたち、何か面白い事したのね。」と言った。どうやらスールはあとから笑っていたらしい。成功である。(思い出したのだが、スール・アレクシには“Bon”、武井先生には“un balai”という不定冠詞付きのあだ名が付いていた。教科書の発音練習の始めに出てきた単語という理由だけで付いたのだから、優しい姉のような武井先生に un balai — ほうき — なんて随分気の毒なあだ名だったと思う。)

スール・アレクシは、私たちの卒業後に病んで、故郷近くのピレネーの修道院で亡くなったときいた。

なつかしい雙葉の校舎は今、建て替えが進んでいる。修道院の中庭のメタセコイアの木、聖堂の聖歌隊席、バルコンや階段の手摺、真鍮のドアノブ、そして赤煉瓦の塀、そういった今はもう失われた物をいくらでもはっきりと思い出せるのは、あるいはむしろ、犀星の詩の様に、私がここ「津」という四ツ谷から500km以上の「遠くにありて思」っているからかもしれない。今でもふと、朝、目が覚めると「女学生」の私が入って、雙葉に行けばやはり「女学生」の級友達が、黒の細い三本線と臘脂の錨のついた紺色のセーラー服を着て、教室の机の前に、窓辺に、バルコンに、居る様な錯覚がするのである。

## 尼子マリリンさん(理事)が大阪へ転居

### フランス語の蔵書多数を本会にプレゼント

三重日仏協会理事・尼子マリリン・ロイドさんは、夫・哲男さんのお仕事や子どもさんの学校の事情もあって3月末、大阪の豊中市に転居されましたが、これを機会に貴重な蔵書のなかから、かつて愛読されたフランス関係の書物27点を本会に寄贈されました。「古い粗末なものもありますが、会員の皆様の楽しみや勉強にすこしでも役立てていただければ幸いです。大阪へ行ってもみんなが集まるような機会にはぜひ呼んでください」。

有名な小説や詩など多く、すべてフランス語の書籍ですが、以下書名を日本語で記します。事務局で保存しますので、ぜひ挑戦してください。(長期貸出し可)

ラ・フォンテーヌ	寓話集 1~6、7~11
ヴォルテール	ロマン、コント集
ラ・ブリュイエール	レ・カラクテール
シャトーブリアン	アタラ、ルネほか
ドラクロア	抜粋(日記など)
ラ・ファイエット夫人	クレーヴの奥方
メリメ	ある貴族のアバンチュール (シャルル9世年代記より)
バルザック	ゴリオ爺さん
”	短編集
ヴェルレーヌ	詩選集
”	昔と近頃 ほか
”	サテュルニアン詩集ほか
マラルメ	詩選集
ランボー、ロートレアモン、	コルビエル、クロ詩集
プルースト	失われた時を求めて より4巻 (スワン家…、花咲く乙女…、ゲルマント…1、2)
M. パニョル	ル・タン・デ・スクレ
モーリアック	海の道
アラン	幸福論
サルトル	汚れた手
R. ヴエイヤン	ボウ・マスク
C. シモン	物語
F. デュルブリッジ	メリッサ
デルタ旅行書	日本

### 日仏地域間交流促進兵庫会議の収録ビデオも到来

「日本におけるフランス年」を記念して昨年5月神戸市で開催され、本会からも列席した標記の会議の様子が同実行委員会から克明な報告書とビデオテープとして寄贈されました。ビデオにはパリ日本文化会館館長・磯村尚徳氏の最近の日仏関係を中心とした興味深い記念講演などが収録されています。視聴ご希望のかたは事務局まで。

## 2/26 大 350人の聴衆うっとり

### 記念コンサート〈みえ・にちふつの音楽家たち〉

「プロヴァンス展」に続く『日本におけるフランス年』記念事業・〈みえ・にちふつの音楽家たち〉は2月26日、津市のリージョンプラザ・お城ホールで開催、三重日仏協会会員の音楽家、ピアノの大廣朋子さん、菅原美枝子さん、針谷宏弥さん、ソプラノの針谷斐子さんの4人のほか、賛助出演としてセロの小川剛一郎さん、ピアノの北住淳さんがそれぞれお得意の曲を選んですばらしい演奏を披露しました。寒い夜でしたが約350人の聴衆が熱心に鑑



賞、記念事業は質的にも、また財政的にも成功しました。出演者はじめ会員各位のご協力に感謝いたします。

なお、当日会場で収録したカセット・テープがありますので、お聴きになりたい方は事務局までご連絡ください。

## 3/1～ フランス語入門講座開講中

今年度もDAMÈME先生と平石先生（三重大学）に講師をお願いして、津駅前第一ビルで12回シリーズで開講。約20人の生徒が熱心に受講しています。

## 5/8～13 〈太陽の地プロヴァンス・神戸展〉

昨年秋、三重県立美術館での展覧会に出展された6人のフランス人芸術家の作品のなかから約半数が神戸の中心部にある画廊で展示されます。その際、昨年津市にも来たアルランディス夫妻が新しい作品を携えて再度来日されます。関西方面の知人に鑑賞をおすすめください。

期間 5月8日（土）～13日（木）11時～19時（最終日は17時まで）

場所 「トア・ギャラリー」 神戸市中央区 通称トアロード 元町駅より徒歩5分

後援 神戸日仏協会

## 6/11 「魅力あるワインの世界へ」

講師に杉本静彦さん 国際ソロブチミスター三重北主催

昨年11月に新しく認証された国際ソロブチミスター三重北（宮崎真知会長）は「地球を救おう（青少年の健全な育成を）」をテーマにさまざまな奉仕活動をおこなっていますが、このたび初年度のチャリティー事業としてワインセミナーを開催します。講師は三重日仏協会会員で1997年度全日本ワインアドバイザー選手権大会優勝など多くの実績をもつ杉本静彦氏（四日市市）が担当されます。

日時 6月11日（金）14時～16時

場所 四日市都ホテル 4F 伊勢の間

チケット 6,500円 ワインと軽食つき

問い合わせ先 宮崎さん 0593-97-5555 または 本会事務局まで

（後援事業）